

稲作情報(Vol.2)

令和4年6月15日
 宮城県石巻農業改良普及センター
 石巻地方米づくり推進本部
 TEL:0225-95-7612 FAX:0225-95-2999
<http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/et-sgsin-n/>

6月上旬の気象経過

～低温、少照、多雨～

◎ 6月上旬、中旬は、平均気温が平年よりも低くなりました。日照時間は、平年比58%、降水量は、断続的な降雨があり平年比141%と多くなりました。

今後の気象経過

○ 1か月予報

令和4年6月9日気象庁発表抜粋

表1 向こう1か月の天候の見通し
 (6/11～7/10)

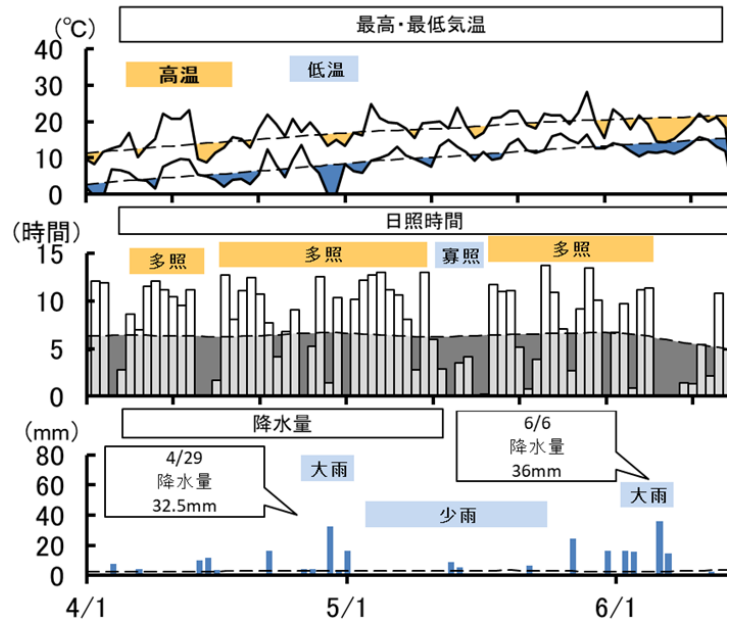


図1 気象経過(アメダス石巻)

地域	平均気温	降水量	日照時間
東北地方	低20 並40 高40%ほぼ平年並か、やや高くなる見込	少30 並40 多30% ほぼ平年並の見込み	少30 並40 多30 ほぼ平年並の見込み

最新の気温の見通しは2週間気温予報(毎日更新)をご覧ください。



水稲の生育状況(6月10日現在)

～生育は平年を下回る傾向～

表2 生育調査ほの調査結果(6月10日現在)

品種	調査ほ場	草丈 (cm)		茎数 (本/m)		葉数 (枚)		葉色 (SPAD値)					
		前年比 (%)	平年比 (%)	前年比 (%)	平年比 (%)	前年差 (枚)	平年差 (枚)	前年差 (枚)	平年差 (枚)				
ひとめぼれ	石巻広淵	24.4	88%	87%	295	97%	105%	6.8	-0.2	-0.9	35.3	-9.4	-6.3
	東松島小松	24.6	88%	86%	222	70%	68%	6.7	-0.1	-0.9	34.2	-3.5	-7.1
ササニシキ	石巻寺崎	26.5	94%	91%	234	74%	86%	6.3	-0.3	-0.7	35.1	-4.8	-2.0
	石巻稲井	23.2	90%	88%	129	55%	58%	5.9	+0.1	-0.9	30.4	-9.8	-6.4
だて正夢	東松島小松	28.9	76%	79%	181	56%	68%	6.7	-0.8	-0.8	38.0	-5.2	-3.5
金のいぶき	石巻蛇田	28.7	79%	89%	157	43%	51%	7.0	-1.4	-0.9	32.8	-7.5	-6.6

乾田直播調査ほの生育状況(6月10日現在)

～生育は平年を下回る傾向～

表3 生育調査ほの調査結果(6月10日現在)

品種	調査ほ場	播種日(月/日)		苗立数(本/m ²)		草丈(cm)		茎数(本/m)		葉数(枚)						
		前年差(日)	平年差(日)	前年差(日)	平年差(日)	前年比(%)	平年比(%)	前年比(%)	平年比(%)	前年差(枚)	平年差(枚)					
ササニシキ	北上	3/26	-14	-13	136	111%	121%	17.8	69%	86%	147	62%	78%	4.7	-0.7	-0.6
ササニシキ	河南	4/3	0	0	144	120%	101%	21.3	74%	91%	169	124%	105%	5.6	0.4	1.0
ひとめぼれ	桃生	4/8	13	-3	145	103%	122%	26.6	123%	117%	235	85%	137%	5.6	-0.1	0.6

注) 平年値は過去5か年の平均※ 移植日および葉数の前年差および平年差の「+」は遅いまたは多い, 「-」は早いまたは少ないを表す。m²当たりの苗立数は、1m間の苗立数×1m間の条数(1m÷1条間の長さ)で求めることができる。

注) 「ササニシキ河南」の平年値は過去3か年の平均

「ひとめぼれ桃生」の平年値は生産者と品種が同じで、ほ場が異なる5か年の平均値
R4年のほ場は、R3年と異なる。

◎5月中旬頃に田面を掘ると播種深1.5cm程度の糶の出芽は早く、播種深3cm程度以下の糶はゆっくりと出芽していました。播種深の目標は、1.5cmです。

◎気象データから出芽日は、5月8日頃と予測されます。

◎いずれのほ場でも苗立ちは、目標の100本/m²以上を確保しています。

今後の管理

～今年は生育がやや遅れています。

目標有効茎数の確保を確認して中干しを行いましょう～

1 水管理

◎ 中干しまでは間断かん水が基本ですが、移植が遅い場合や直播栽培など生育量が不足しているほ場では3cm程度の浅水とし、分げつの発生を促しましょう。

◎ 目標有効茎数を確保したら早めに中干しを実施しましょう(目標有効茎数は表4を参考にしてください)。中干しは7～10日間程度で、土の表面に軽くひび割れが入り、歩くと軽く足跡が残る程度が目安です。なお、実施に当たっては、各土地改良区の揚水停止期間を確認し、計画的に水管理を行いましょう。

◎ 復元田などで倒伏が心配される場合には、分げつ期における深水管理が有効です。分げつ期に深水とすることで茎数の増加を抑制することができます。ただし、深水管理によって表層はく離が発生しやすくなるので注意しましょう。なお、表層はく離対策としては、浅水管理や日中落水管理が有効です。

◎ 有機物を多用している水田などで、土壌からガスの発生が見られる場合には、中耕や一時的に落水するなどして土壌中に酸素を供給し、根への障害を防ぎましょう。

【今後の水管理のポイント】

- 復元田など過繁茂となりやすく、倒伏が心配されるほ場では、
➡ 一般ほ場より中干し開始の時期を早める。
- 大区画ほ場や排水不良田では、
➡ 溝切りを行い、排水を促す。
- 直播栽培など揚水停止まで必要茎数を確保できないほ場では、
➡ 揚水停止直前に湛水し、必要茎数を確保してから中干しする。
 (湛水直播は強めに中干し)

表4 品種別の目標有効茎数

品種	目標有効茎数(穂数)					
	移植栽培			直播栽培		
	㎡あたり(本/㎡)	1株当たり(本/株)		㎡あたり(本/㎡)	条1m当たり(本/m)	
ササニシキ	480~510	50株/坪植え	32~34			
		60株/坪植え	26~28			
ひとめぼれ	410~460	50株/坪植え	27~30	460	条間30cm	138
		60株/坪植え	23~25		条間25cm	115
まなむすめ	390~440	50株/坪植え	26~29	370	条間30cm	111
		60株/坪植え	21~24		条間25cm	93

2 雑草対策

- ◎ 残草がある場合には、中・後期剤を利用してください(表5)。
 (※ JAいしのまき環境保全米では中・後期除草剤は使用できません。)
- ◎ 除草剤の選定の際には、雑草の種類や草丈、葉齢などを確認し、適切な剤を選定するとともに、使用の際は、容器のラベルに記載された使用時期、使用方法を守りましょう。

表5 主な中期除草剤(移植・直播共通)

除草剤名	主な適用雑草						使用方法	HRACコード
	ノビエ	一年生雑草 (イネ科を除く)	ホタルイ	クログワイ	シズイ	コキヤガラ		
クリンチャーEW	○ 注1						【移】湛水散布又は落水散布 【直】雑草茎葉散布又は全面散布	1 1
クリンチャー1キロ粒剤	○						湛水散布又は無人ヘリコプター散布	1
クリンチャージャンボ	○						水田に小包装(パック)のまま投入	1
バサグラン液剤		○	○	○	○【移】	○【移】	落水散布又はごく浅く湛水して散布	6
バサグラン粒剤		○	○	○【移】	○【移】		落水散布又はごく浅く湛水して散布	6
クリンチャーバスME液剤	○ 注2	○ 注2	○	○【移】	○【移】	○【移】	【移】落水散布又はごく浅く湛水して散布 【直】乾田・落水状態で雑草茎葉散布又は全面散布	1.6 1.6
トドメMF乳剤	○注3						【移】湛水・落水散布、【直】雑草茎葉散布又は全面散布	1
トドメMF1キロ粒剤	○注4						湛水散布又は無人航空機による散布	1
トドメバスMF液剤	○ 注2・5	○注2 イネ科雑草含む	○ (一年生雑草)	○【移】 (多年生雑草)		○【移】 (多年生雑草)	【移】落水散布又はごく浅く湛水して散布 【直】乾田・落水状態で雑草茎葉散布又は全面散布	6.1 6.1

※ 登録内容は令和4年6月9日現在のものです。使用前に必ず最新の登録内容を確認して、適正に使用してください。

表中の【移】は移植栽培のみ、【直】は直播栽培のみの登録です。

注1 農薬登録は、移植水稻がノビエ、直播水稻が水田一年生イネ科雑草への適用となっています。

注2 農薬登録は、水田一年生雑草への適用となっています。

注3 農薬登録は、移植水稻はノビエ7葉期まで(湛水又は落水散布)。直播水稻はノビエ6葉期まで(雑草茎葉又は全面散布)。

注4 農薬登録は、移植水稻はノビエ5葉期まで、直播水稻はノビエ4葉期まで(湛水又は無人航空機による散布)。

注5 農薬登録は、移植水稻はノビエ6葉期まで(湛水又は落水散布)、直播水稻はノビエ6葉期まで(雑草茎葉又は全面散布)。

3 いもち病対策 ～ 移植では残苗処分, 直播では予防防除を！～

- ◎ 残苗が放置されているほ場が散見されますので、直ちに処分しましょう。
- ◎ 例年、直播栽培では、移植栽培で使用されている箱処理剤が使えないため、いもち病に感染するリスクが高くなっています。必ず6月中～下旬に葉いもち予防粒剤による防除を行いましょう。

4 斑点米カメムシ類対策

- ◎ 宮城県では、水稻うるち玄米の産年別格付け理由割合の中で、斑点米カメムシ類などによる着色粒により2等以下に各付けされた割合は6か年平均で25.8% (H28～R3) となっています。
- ◎ けい畔や農道、雑草ほか、休耕田のイネ科雑草は、今後斑点米カメムシ類の重要な繁殖源となるので、今から計画的な草刈りを行い、カメムシ類の発生を抑制しましょう。
- ◎ ほ場の中にイヌホタルイが残っている場合は、斑点米による落等の確率が高まるので(表6)、7月上旬までに追加除草を行ってください。

表6 イヌホタルイ発生量に基づく斑点米被害リスク

6月下旬の株数/㎡	2等以下に落等する確率
0～1	0～30%
1～6	30～40%
6～16	40～50%
16～28	50～60%
28～42	60～70%
42～61	70～80%
61～90	80～90%
90～112	90～94%
112～	94%～

調査方法: 水田内でイヌホタルイが密生している1か所を調査する。
条間1m内の株数を3.3倍して1㎡あたりの株数を求める。
(宮城県病害虫防除所)

※殺虫剤散布を行わない場合の被害リスクは、上記の確率よりも高まる可能性があります。

～ 農薬危害防止運動実施中(6月1日～8月31日) ～

農薬の使用に当たっては、必ずラベルに記載された適用病害虫、使用方法、最終有効年限等を確認して、定められた方法を厳守してください。

最新の農薬登録情報は、農林水産消費安全技術センターホームページ <http://www.famic.go.jp/> で確認できます。